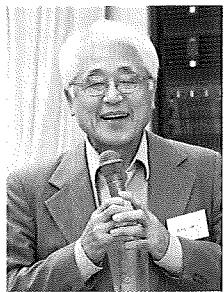


# 高知県坂本龍馬記念館・現代龍馬学会

私のテーマ

## 「ジャッドさんの子孫のこと」

万次郎から現代へと繋がる縁 北代淳一



思いがけない出会いだつた。170年前、万次郎ら土佐の漂流民5人が世話になつたジャッド医師の子孫と、坂本龍馬記念館のハワイ・フォーラムで対面した。

### 万次郎とジャッド医師

1841年(天保12年)1月、

万次郎は先輩漁師の筆之丞(のちに伝蔵と改名)、重助、五右衛門、寅右衛門と出漁中に嵐に遭い漂流。鳥島に流れ着いて餓死寸前のところを、運よく6月に米捕鯨船に救助された。

捕鯨船はそのまま操業を続け、11月になつてホノルルに入港した。ハワイは国際的にはまだサンドイッチ諸島と呼ばれ、カメハメハ王朝が統治していた時代である。

捕鯨船のホイットフィールド

船長は上陸すると、5人の漂流民を友人のジャッド医師の所へ連れて行つた。ホイットフィールド船長はどうやらこの時、万次郎らが日本人かどうかまだ確信がもてなかつたようだ。

そこでジャッド医師はかつて他の漂流民が残していった日本のきせるや寛永通宝などを見せたり、手を合わせて拝む仕草をしたり、手振り身振りで話しかけながら万次郎たちの

反応を見て、5人は日本人だと確認した。この模様はのちに万次郎らの海外体験を聞き書きした河田小龍の『漂翼紀畧』(1852年)の中に生き生きと描写されている。



### 繋がりは次の時代へ

「此のダッタジョージはもとメリケ人にして此の土に来たり、医を以て業となし」と『漂翼紀畧』が記しているように、ジェリット・

在だと初めて聞いたのは7月24日、龍馬記念館アメリカファーラムの打合会の席上。隣に座つたホノルル・ブナホウスクールの日本語教師ピーターソンひろみさんの口からである。

オバマ大統領の出身校として

なつて面倒を見た。そのジャッド医師の子孫がハワイで健

ハワイに残つた4人の中で伝蔵と五右衛門は10年後に万次郎と日本に帰国したが、重助はその前に病死、寅右衛門は現地の女性と結婚して帰国せず、その後の消息は不明である。

今回は時間がなかつたが、ジャッド医師の子孫を手がかりにして、これまで殆ど知られていない万次郎の仲間たちのハワイでの暮らしに、新たな光があたられるかもしれない。

パーメル・ジャッド Geritt Parmelee

Judd (1803-1873) はユーリークリスト教宣教師となり、24歳

ヨーレーの医学校を卒業したあと

キリスト教宣教師となり、24歳

でホノルルに渡る。のちにカメハ

メハ3世の信頼を得て、実質的

な首相役まで務めた初期ハワイ

史上の重要な人物である。

ホイット

フィールド船長から日本人漂流民を託されたジャッ

ド医師は万

次郎が船長と

共に去つたあ

とも、残され

た4人が異郷

の地で無事に

暮らせるよう

に、住居や就

職の世話をす

るなど親身に

現職の広報部長だ。

ハワイに残つた4人の中で伝蔵

と五右衛門は10年後に万次郎と

日本に帰国したが、重助はそ

の前に病死、寅右衛門は現地の女

性と結婚して帰国せず、その後

の消息は不明である。

今回も時間がなかつたが、ジャッ

ド医師の子孫を手がかりにして、

これまで殆ど知られていない万次

郎の仲間たちのハワイでの暮らし

に、新たな光があたられるかも

有名なブナホウスクールは、幼稚園から高校までのすぐれた一貫教育で知られる全米屈指の私立校である。

その歴史を調べてみて驚いた。

なんとジャッド医師も創立者の一人だった。太平洋の米捕鯨が19

世紀半ば迄に最盛期を迎えると

共にハワイに来る米宣教師の数も

増え、その子弟の教育のために

作られたのがブナホウスクールの始まりだつた。

10月11日、ブナホウスクールで開かれたフォーラムで、ピーター・ソーンひろみ先生がジャッド医師の2人の子孫を紹介してくれた。5代目のメリー・ジャッドさん(81)と6代目のローレル・フェインさん(58)。メリーさんはブナホウの元職員で、ローレルさんは現職の広報部長だ。

ハワイに残つた4人の中で伝蔵

と五右衛門は10年後に万次郎と

日本に帰国したが、重助はそ

の前に病死、寅右衛門は現地の女

性と結婚して帰国せず、その後

の消息は不明である。

今回も時間がなかつたが、ジャッ

ド医師の子孫を手がかりにして、

これまで殆ど知られていない万次

郎の仲間たちのハワイでの暮らし

に、新たな光があたられるかも



## 高松千鶴の便箋

京都国立博物館 宮川 複一

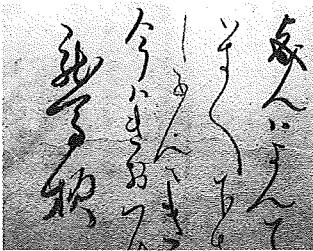
物事に気付くにはきつか  
けが必要だ。見ているよう  
でじつは見ていない事柄がい  
かに多いことか。

ある日、筆者は京都國立博物館所蔵の坂本龍馬の手紙類の長い巻物を光に透かして見ていた。「ふむふむ、ここに虫喰いの痕があるぞ」とか「ああこの手紙は後から貼り継いでいるな」とか。

その時にあつと気付いたのだ。龍馬の姉高松千鶴がうつすらした幾何学模様があることを。この手紙はおしゃれ便箋に書かれたものだつたのである。

高松千鶴は龍馬の長姉。安田村の郷士高松順藏に嫁していた。のちに坂本家を継承していく高松太郎（坂本直）や習吉（坂本直寛）の母である。子供時代の龍馬が高松家へ度々遊びに行つていたことも龍馬の手紙（慶應元年九月九日）に見える。

この高松千鶴の確実な筆跡はわずかにこの通だけのようだ。安政三年の秋頃、第二次江戸修行中の龍馬を思いやつて「炎をすえたか？お守りは届いたか？」

(写真)千鶴姉さんの手紙の細部  
(重文・京都国立博物館蔵)